

行くだけじゃ面白くない！

大人の 「ひねり旅」 指南



第1回

ここを押さえろ！
自分で作る旅を
最高のものにする3か条

DiThi（ディシィ）代表
観光ホスピタリティコンサルタント

石田 宜久

URL <http://www.dithi.net>

E-mail info.contact@dithi.net

「これまでの誰よりも遠くへ、
それどころか、人間が行ける果て
まで私は行きたい」。英国士官で
あり海洋冒険家でもあった、キャ
プテン・ジェームズ・クックが記
した言葉です。

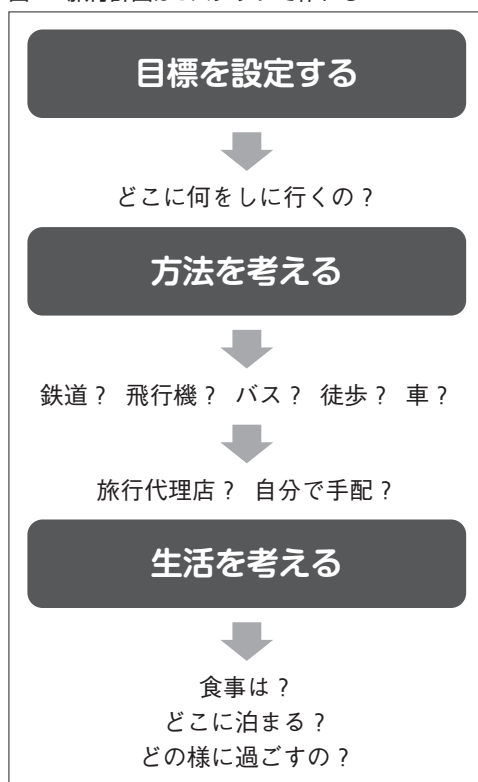
人は旅に出る事に魅力を感じる
ものです。日本でも長期休暇や連
休の際には非常に多くの方が旅行
に出かけ、自身、家族、パートナ
ーとの思い出を作っています。
そして、長年の仕事を終え、セカ
ンドライフに旅の時間を作る方も
多くいらっしゃいます。これまで

には体験できなかった時間を有意
義に過ごそうとワクワクされる事
でしょう。

しかし中には、旅行代理店が用
意したツアーやパッケージ、団体
旅行に参加し、思い通りの時間を
過ごせずに「面白みに欠ける」と
感じる方が多いのが現実です。そ
こで今回、大人の「ひねり旅」指
南として、これからの旅を有意義
なものにする旅の方法を7回に分
けて提案していきます。

連載第1回目は「自分で作る旅
を最高のものにする3か条」とし

図1 旅行計画は3ステップで作れる



て、初めてでも最高の旅プランを
作る方法を、地域の観光業をサポ
ートしてきている立場である筆者
が解説し、一段階でも良質な旅に
するためのコツとその注目を紹
介します。

旅を計画するのは意外と簡単

旅行に行く際にはどの様にプラ
ンを作ってきましたか？調査によ
ると、旅行代理店・ツアーパッケ
ージ任せが5割、ガイドブックの
モデルを参考に自分で手配が3

割、自作プランと放浪の旅が1割
で、その他（友人任せ・飛び込み
旅など）が1割と、何かしらの基
盤を元にプランを作成し出かけて
いる割合が8割にもなります。

巷では旅行代理店離れが進み、
インターネット予約が流行になっ
ているとも言われますが、それだ
もベールとなつてゐるのは、書店
に数多く並ぶ旅行雑誌やガイドブ
ックに記載されているモデルケー
スが元になつてゐるようです。

やはり完全にオリジナルで旅行
のプランを立てるのは難しいと思

われているのでしょうか。しかし実際、旅のプランは専門的知識も技術も必要なく、誰でも簡単に作れるものです。

一番簡単に説明すると旅行計画は3ステップで作れます(図1)。「何をしたいのか」を決め、「現地向かい」「衣食住」を確保できれば最低限旅行を楽しむことが出来ます。ただ、これで充実した旅ができるのかと言うと、それは決して保障されるものではありません。この部分を向上させる為に旅行代理店やガイドブックが助けにくれるというわけです。

今回はあくまでも「自作旅」なので、旅行代理店やガイドブックのモデルコースは使いません。自分で充実した旅行プランを作るために必要な、知っておくと便利な「自分で作る旅を最高のものにする3か条」をご紹介します。

- ①地域が観てほしいところを知る
- ②情報源は一本に絞らない
- ③「行き当たりバツ旅」も一つのオプション

地域が観てほしいところを知る

旅の計画を立てる際に、一番目のステップとして「目標を設定する」があります。どこに何をしに行くのかをまずは考えなければいけません。よく「温泉でも行くか!」となれば、有名温泉地の名前が挙がり、どうしてもその先入観によって行く場所が定まってしまうのです。

それではもったいない! 例えば、日本が世界に誇る有名観光地、京都。どの様なイメージがあり、京都に行くときの様な体験ができると思いますか? 十中八九、歴史系の旅行になる想像をされると思えます。しかし目線を変えると京都はそれだけではありません。

「千年の都」「古都」のイメージが強い京都ですが、戦前は「日本のハリウッド」と呼ばれるほど、映画に精通した地でした。今でも国内に数か所しかない本格的なフィルム収蔵庫が京都府京都文化博物館にあります。博物館にはフィ

ルムシアターがあり、定期的に古い作品を上映していることは知られていますが、国内有数のフィルム収蔵庫がある事までは意外に知られていません。

他にも、観光地には「観光客向け商品」という存在があります。これは必ずしも「名物が名物とは限らない」と言い換えることができます。

例えば、香川県は、うどん県で話題になった様に、うどんが名物となっています。観光客にも勧められますが、県民の皆さんも本当によく口にしてる県民食です。

ところが、北海道のジンギスカン。近年ではジンギスカン離れが進み、実は日常からよく食べられていると言うよりは、観光客と同じく特別な食べ物となっています。また、北海道に住む筆者の友人に至っては、「北海道の名物は塩ラーメンでジンギスカンは違う」とまで言っていました。

この様に一般的に知られている事とは違う一面を地域は持ち合わせており、観光向けと一般向けが

違う場面も多々あります。筆者の仕事もそうですが、自治体や観光協会は常に何か新しいものを模索しています。地域が思う核心部分と併せてもう一步踏み込み、探ってみると思いがけない発見ができるかもしれません。

情報源は一本に絞らない

筆者は、観光ホスピタリティコンサルタントの仕事柄、どうしても「今度〇〇に行くのだけど、いいところ知らない?」とよく聞かれます。観光地の裏情報や新名物を知っていると思われているのでしょう。

しかし筆者自身、すべての地域とお付き合いがあるわけではありませんので、様々な地域の事を少しでも多く知ろうと勉強しています。そのためには情報源を一本に絞らない事を心掛けています。

よく本屋さんで旅行雑誌を眺めていると、ガイドブックや旅行誌一冊を手にとって会計を済ませる方がほとんどですが、旅行をより

観光ホスピタリティコンサルタント直伝

情報源になる「大人向け」国内外オススメガイドブックランキング

■ 国内編

1位 楽々 (JTBパブリッシング)

総合バランス系で作りは王道です。写真は小さく、文字情報が豊富なので「本来のガイドブック」としての意味を忠実に守っている、本来の意味での情報源と言える一冊となるでしょう。

2位 まっぴるマガジン (昭文社)

広告も少なく整理されたレイアウトで、昭文社らしく地図がとても見やすいのが特徴です。観光地解説が重視されている、現代の流れでは貴重な存在です。数百円と手頃なものもオススメ。ムック型の特徴、最新情報が掲載されているという面でも好いです。

3位 ブルーガイドプチ贅沢な旅 (実業之日本社)

やや高めめの場所をセレクトした情報セレクト系の一面と、観光地の情報も充分に網羅されていることから総合系とも言えるブランドです。紹介されている店舗が上品で渋めなチョイスが出来ます。ただし「THE・観光客向け商品」情報は手薄なので、別途収集が必要です。

■ 国外編

1位 わがまま歩き (実業之日本社)

総合系で、レイアウトはシンプルに、非常に使い

勝手が良い作りになっています。特に海外旅行で不安になる地図は見やすく丁寧で、アクセス情報とあわせて手厚く掲載されています。

2位 地球の歩き方 (ダイヤモンド・ビッグ社)

海外旅行ガイドの定番と言うくらいのタイトルです。その人気にふさわしい情報量はぶっちぎりの詳しさです。掲載されているスポットまで定番なのがマイナスですが、総合系の内容としては充実しています。

3位 旅名人ブックス (日経BP社)

歴史とグルメをテーマに絞ったタイトルですが、この2テーマの情報は他の追随を許しません。少々高級路線もあるので、贅沢旅のお供にも最適です。アクセス情報に不安な点がありますので、別に補う必要があります。

■ 番外編 lonely planet (ロンリープラネット)

世界ナンバー1ガイドブックの座を譲らない、日本のガイドブックとは比較にならない情報量を誇るタイトルです。英語ですが、日本人でも使っている人は多いです。白黒印刷で地図も少ないので日本人の感覚には使いにくい部分がありますが、「確かな一品」ということでご紹介します。

ガイドブックの内容は、出版社の方針や、編集者のセンスや好みによっても変わってきます。十人

・ 総合バランス系
・ グルメ・お買い物重視系
・ 情報セレクト系
・ テーマ系(温泉・登山・四国八十八箇所など)

良いものにするためには、これではもったいないのです。ガイドブックとは大きく4つのタイプに分けることができます。



図2 情報を網羅するコツとカギ！

十色なので手にした一冊があな自身に合っているかわかりません。吟味したつもりでも結構ずれている事があります。

また、非常に多くのガイドブックや資料雑誌が出回っている現代、地域の解説はどれも貧弱なのが現状で、長所ばかりが際立っています。そこで違うタイプの書籍、

- 現地パンフレットは必ず手に入れる
- 出来ればフリーペーパーを見つける。お祭りや地域イベント情報が見つかるかも
- 食事はインターネットで探すべからず。情報量が多すぎるので結局迷うばかり
- 地元メシを探してみると当たりが多い
- 宿泊場所の従業員とタクシーの運転手は情報源。色々な事を知っている
- 旅行Webサイトだけでなく、自治体や観光協会のWebサイトを忘れずにチェック
- 口コミサイトの信頼性は6割ほど。サクラや投稿代理店が存在するのでガセネタも多いので、注意！
- ボランティアガイドが活動している場合は、積極的に話をしてみるのもオススメ。ガイドブックよりも頼りになることがある

ガイドブックに載っていない!?

筆者、石田がオススメする「行ってごらん!」スポット

●淀川の河川敷（大阪府）

釣りもできるし昆虫も多い、都会の隠れた自然の宝庫。実はウエイクボードが出来る。梅田のビル群を眺めながらウエイクボードで淀川を滑りぬけるのは快感。

●姫路おでん（兵庫県）

生姜醤油につけて食べるおでん。姫路城の前に行ったら、お城しか見えなくなりがちですが、とてもおいしいおでんを堪能できる。筆者が訪れた時も本当に観光客が少なく、隠れた美味といえる。

●JR常磐線 我孫子駅 弥生軒（千葉県）

立ち食い蕎麦なので、ガイドブックに載る事はないと思うが、ホームに行列が出来るほどの人気ぶり。各地にある行列店に肩を並べるほど、地元では有名な隠れた名店。

●滝不動明王（山形県）

温泉地の近くで、名前だけを聞けば観光名所の様な印象を受けるが、実は有名な心霊スポット。この手の話に興味があれば名所なので一見の価値あり、ただし背後から近づく…には気を付けたい。

そして、インターネットを駆使し、オリジナル情報源を作ると素晴らしい旅行資料が出来るというわけです（図2）。

「行き当たりバツ旅」も一つのオプション

ここまで、ガイドブックやイン

ターネットを駆使し、自分でプランを立てるという話をしてきました。ところが長い期間の旅となると、どうしてもすべての予定を組むのは難しくなり、自分に与えられた時間との相談が難航すると思います。そんな時は、自分で予定を立てられるからこその特徴を活かし、行き当たりばったりの旅を

一つのオプションとするのがオススメです。

旅行計画をしつかり立てるのは、確かな旅を確保できるという点ではメリットなのですが、逆にその確かさが制約となり、必ずその時に予約された場所になければいけない事になります。また、長期旅で使いがちなパッケージツアーにも時間的な拘束があり、食事や宿泊も団体扱いなので、高級の様に見えるモノでも扱いのランクは低いものです。

そこで、計画による制約を軽減する意味で、行き当たりバツ旅を選択するのも一つの選択肢となるわけです。

例えば、一つの旅に対しても、初日と最終日を決め、最初と最後の宿泊場所のみを予約。その間の期間を行き当たりばったりにするだけでも、目的地がハッキリしているの、初めてでも行き当たりバツ旅がしやすくなります。期間中に発見したお好みの場所に長く滞在しても、時間に縛られる事なくゆっくりできます。

ただし一つ注意点があります。一見気ままに旅が出来るようですが、特徴柄宿探しには時間が取られてしまいます。また、シーズンとなると多くの宿泊場所が満室となり、飛び込みで泊まる事ができなくなります。情報の現地調達が必要になるので、怠らないようにしましょう。

最高の旅を自分で作るには？

せっかく自分の時間を使い旅行へ出かけるので、内容も良いものにしたいものです。他人と違う旅を求めるならば、やはり情報が多いに限った事はありません。それゆえ、旅行会社に駆け込みがちですが、それではオリジナルテイに欠けます。あえて、自分の趣味や興味だけで旅行計画を立ててみるのも一つです。まずは、その旅で何をしたいのかを考え、食欲に楽しむことが結果的に最高の旅になるのです。

今回は長期間の旅を楽しむ方法をご紹介します。お楽しみに！